

東京理科大学学位記・修了証書授与式 理事長祝辞

卒業生の皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。学校法人東京理科大学を代表いたしまして、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。本日、皆さんが祝福の中で伝統と歴史ある東京理科大学の学位記や修了証書を手に巣立って行かれますことを、心からお祝い申し上げます。

本学は創立以来変わらない、「真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる」という実力主義を脈々と継承してきました。

厳しい進級制度を乗り越え、無事に卒業式を迎えることができたのは、今日まで見守ってこられた、ご両親、ご家族、そして学業を支えてこられた先生方や友人、その他関係者の方々のおかげであり、みなさんの恩人に対して感謝する気持ちを忘れないでいただきたいと思います。

振り返ってみますと、本学は1881年に創設された東京物理学講習所に始まり、戦後の学制改革によって1949年に東京理科大学となり、今年で創立136年を迎えます。

本学は、日本の国公立大学の中でも随一の理工系私立大学として高い評価を受け、20万名を超える先輩方が、科学や技術の目覚ましい発展に大きく貢献してきました。

このように歴史ある本学で、皆さんは懸命に勉学に励み、物事の本質や真理を探求し、その知見を基に人々の生活を豊かにするために物を創造する技術を学びました。

日本経済への貢献、生活環境の保全、温暖化問題やエネルギー問題など、取

り組むべき課題は山積しており、これらを解決に導くためには、皆さんの知識や技術が必要不可欠です。

○また大学で学ぶものはこれらの知識、技術の修得ばかりでなく、人生にとって生きることを意味を探るための教養を身につけたのではないかと思います。

知識・技術は道具であって手段に過ぎず、大学は知識を増やすことだけが目的ではありません。

知識・技術は問題を発見したり解決したり、新たなもの・ことを見出したりなど、その人の興味を広げてくれます。それが教養化した知識となります。

教養とは人生における面白いことや、楽しいことを増やすためのツールです。また人からの評価を高めたり、箔をつけたりするものでなく、自分の人生をより彩り豊かにするためのものです。

皆さんは本学で教育を受け、あるいは研究に集中されましたが、それが終点ではなく通過点であり、これからが人生の出発といっても過言ではありません。これからも理科大生として誇りを持ち、心豊かに生きるために教養あふれる人としてたゆまぬ勉強に心がけてください。

○卒業後、皆さんは教育者、科学技術者、研究者、実業界など、それぞれの立場でこの難問に挑戦することになりますが、これからの人生は失敗と挫折もついて回ります。

また本学の建学の精神を英語で言いますと、Building a Better Future

with Science です。

この精神によって本学で科学を学んだ学生、院生は事実を直視し、事実を素直に認める謙虚さを修める必然があります。

事実を直視せず誤りを素直に認めず自分をごまかしていると、いつまで経っても同じようにつまずくものです。

自我の成熟には、自己を突き放して客観的に見る目が何としても 必要となります。

客観的に自分を見ることができない原因は、虚栄心や不安感、自信の無さにありますが、人間には虚栄心や不安感もありますので、それらを認識した上でバランスを取り、折り合いをつけていくことが大切です。

○ここで皆さんにお伝えしたいのは、人間であれば誰でも、非があり、欠点があります。自分には非がない、欠点がないと思い込み、それを密かに誇る心の姿勢。すなわち密やかな驕り、無意識の傲慢さです。それを作るのが理科大生が陥りやすい優等生意識です。

周りの人の心が離れていくのは人には非があり、欠点があり、未熟であるからではありません。

人が自分の非を認めず、欠点を認めず、自分には非がないと思い込むときに周りの人の心は離れていくものです。

これから皆さんにはたくさんのお会いがあります。今後さらに人間関係で悩むこともあるでしょう。

人との関係でトラブルが起こるとき、どちらか一方だけに非があることは、あまりありません。にもかかわらず、自らの非を認めず、相手の非のみをあげつらい、争い事を起こす。それを避けるために、その人間関係から逃れ、その苦痛から逃げ、自分の成長の課題から目を背けてしまうと、一時的に解決したようでも、いずれ同じような問題に巻き込まれ、自らの成長の課題をふたたび突きつけられることになります。

これからの人生の出来事は自分に何を問うているかの連続です。自ら磨き続けて、自分の姿、他人の姿、物事の姿が曇り無く、見えるようになっていただきたいと思います。

皆さんは好むと好まざるを別にして、人の上に立ち、指導し、集団を一つの方向に導く立場にいずれなるでしょう。常に謙虚な姿勢で自らを磨くことにこれからも励んでください。

○最後に、皆さんは今日から東京理科大学の同窓となり、理窓会の会員となります。本学は明治以来、同窓会の支援のもとに発展してまいりました。

皆さんの先輩たちの多くの方々には理窓会と関わりを持ち、本学と 同窓を結ぶ太い絆となっています。

これからは皆さんもまた、同窓生として理窓会に加わっていただき、これか

ら本学の歴史と伝統、理大生としての誇りを後輩に伝承し、本学の発展にご尽力いただきますよう、心からお願い申し上げます。

皆さんが健康に恵まれ、心豊かな人生を送られんことを祈念して、私の祝辞といたします。

平成二十九年三月十八日

学校法人 東京理科大学

理事長 本山 和夫